

岐阜県図書館世界分布図センターにおける 外邦図の収集と整理及び利活用について

西村三紀郎（岐阜県図書館世界分布図センター）

．はじめに

岐阜県図書館世界分布図センターは、1995(平成 7)年 7 月 7 日、分布図・地図に関して、児童生徒から専門家の学術研究まで幅広い活動を支援するため、岐阜県図書館開設(移転新築)と同時に岐阜県図書館内に設立された。

当センターの所蔵資料は、現在世界 180 余の国・地域及び日本の分布図・地図等を約 14 万点所蔵し、全国有数の規模である。

主な所蔵資料は以下のとおりである。

- ・ 国土地理院発行地形図(1/1 万・1/2.5 万・1/5 万) 約 2 万 4 千点
- ・ 旧ソ連製地図(旧ソ連が製作した旧ソ連・アジア・アフリカ諸国の地図)約 2 万点
- ・ 外邦図約 1 万 4 千点
- ・ 古地図約 1 万 2 千点(寄託を含む)
- ・ その他、空中写真や世界の都市図、地質図・湖沼図・海図など各種の主題図多数

．外邦図の収集

(1) 収集の経緯

当館特別顧問の金窪敏知氏より東北大学が外邦図を所蔵しているとの情報を得て、同大学へ寄贈・借り受けでの複製製作を依頼したところ、広く一般に公開することを条件に御快諾をいただき、1997(平成 9)年より収集を始めた。

(2) 収集の経過

東北大学からの収集は 2 年間にわたり、以後京都大学、東京大学、広島大学と続くが、その経過は表 1 のようである。

(3) 収集の方法

東北大学所蔵外邦図については全図幅を対象に、同大学が同一図幅を複数所蔵している場合は実物の寄贈を受け、1 図幅のみの場合はそれを借り受け、複写・ラミネート加工後に返却する方法をとった。

表 1 外邦図の収集経過

所蔵機関名	収集年度	収集図幅数	備考
東北大学 (地理学教室・総合学術博物館)	1997・98(平成 9・10)年度	約 1 万点	海図・内邦図を含む
京都大学 (地理学教室・総合博物館)	1999・2000(平成 11・12)年度	約 1.8 千点	
東京大学(総合研究博物館)	2001・02(平成 13・14)年度	約 1.5 千点	
広島大学 (総合地誌研究資料センター)	2003(平成 15)年度	約百点	

合計約 1.4 万図幅(個人寄贈の外邦図を含む)

この東北大学所蔵外邦図を基準とし、以後、京都・東京・広島大学所蔵外邦図については、各大学所蔵の外邦図から当センター未所蔵の外邦図を調査・選定し、それらを借り受け、複写・ラミネート加工後に返却する方法であった。

なお、複製作製において、対象図幅のサイズがA0までの場合はそのままのサイズでコピーを、同サイズを超える場合は分割コピーを行った。ただし、予算の関係で、原図がカラー印刷であっても白黒で複製を作製した場合もある。

(4) 収集後の整理

以上のように収集した外邦図については、以下のよう
に目録を作成して整理した。

各大学ごとに当センター独自の通番(地域・縮尺別9桁)と所蔵場所(棚番)を付した。ただし、東北大学については、同大学作成の目録があったために、その番号を利用(最終的には9桁)させていただいた。緯度・経度が記載されていない図も存在するため、京都・東京・広島大学から収集した外邦図の目録については、「国・地域名」・「図幅名」・「縮尺」・「発行年」・「色彩」の5項目のみのデータとした。

これらの目録については、当センターのホームページに掲載した。(広島大学分は未掲載)

・大学別目録の問題点

前述のように目録を作成したが、実際の利用やレファレンスにおいて、次のような不便さや問題点が生じていた。

- (1) 収集先別の目録であったため、ある図幅を検索する際、場合によってはそれぞれの大学の目録を全てチェックしなければならなかった。
- (2) 緯度経度が不明な図幅の場合、目的の地図を探し出すのに多くの時間が必要であった。

これらの問題点を解消するために、2002・03(平成14・15)年度に「外邦図データベース構築事業」を行った。

・外邦図データベース構築事業

幸い、国・県から予算(緊急雇用対策)を付けていた

だき、この事業を行うことができた。その内容は次のとおりであるが、事業遂行においては利用やレファレンス機能を向上させ、広く一般に利用していただくことを主題とした。

(1) 対象外邦図と年度

- ・ 2002(平成14)年度:
朝鮮半島、中国北支・南支、満州の一部
- ・ 2003(平成15)年度:
残りの地域(広島大学分は含まず)

(2) データシートの作成

まず基礎資料とするために、1図幅ごとのデータシートを作成した。この際特に留意したのは、後にインデックスマップ作製に必要な緯度・経度の調査である。ご存じのように、外邦図には緯度・経度が記載されていなかったり、記載されていてもグリニッジ天文台を基準とした緯度・経度でないものも存在するからである。このデータシートの完成品は図1のようで、図歴に必要な事項は調査・記載したつもりでいる。

(3) 目録の作成

データシートの必要な項目を選んで、目録を作成(エクセルデータ)した。この目録は、2002(平成14)年度までの3大学分を、国・地域、縮尺別等にまとめたものである。

(4) インデックスマップの作製

最後に、国・地域、縮尺別(場合によっては、発行年別)にインデックスマップを作製した。このインデックスマップの1図幅の記載データは、繁雑さ避けるために地図の検索に必要な最小限な内容にとどめ、図幅名・地図番号(当センター独自の番号)・棚番(所蔵場所)のみとした(図2)。なお、必要な経線・緯線は記載してある。

(5) インデックスマップのホームページへの掲載

外邦図を来館者のみに限らず、広く利用していただくために、当センターのホームページに掲載している。(現段階では2002年度の事業分のみ掲載。)

このホームページでは、次の順序で該当のインデックスマップを検索できるようにしている。(該当箇所をクリックすることにより次のシートを見ることができる。)

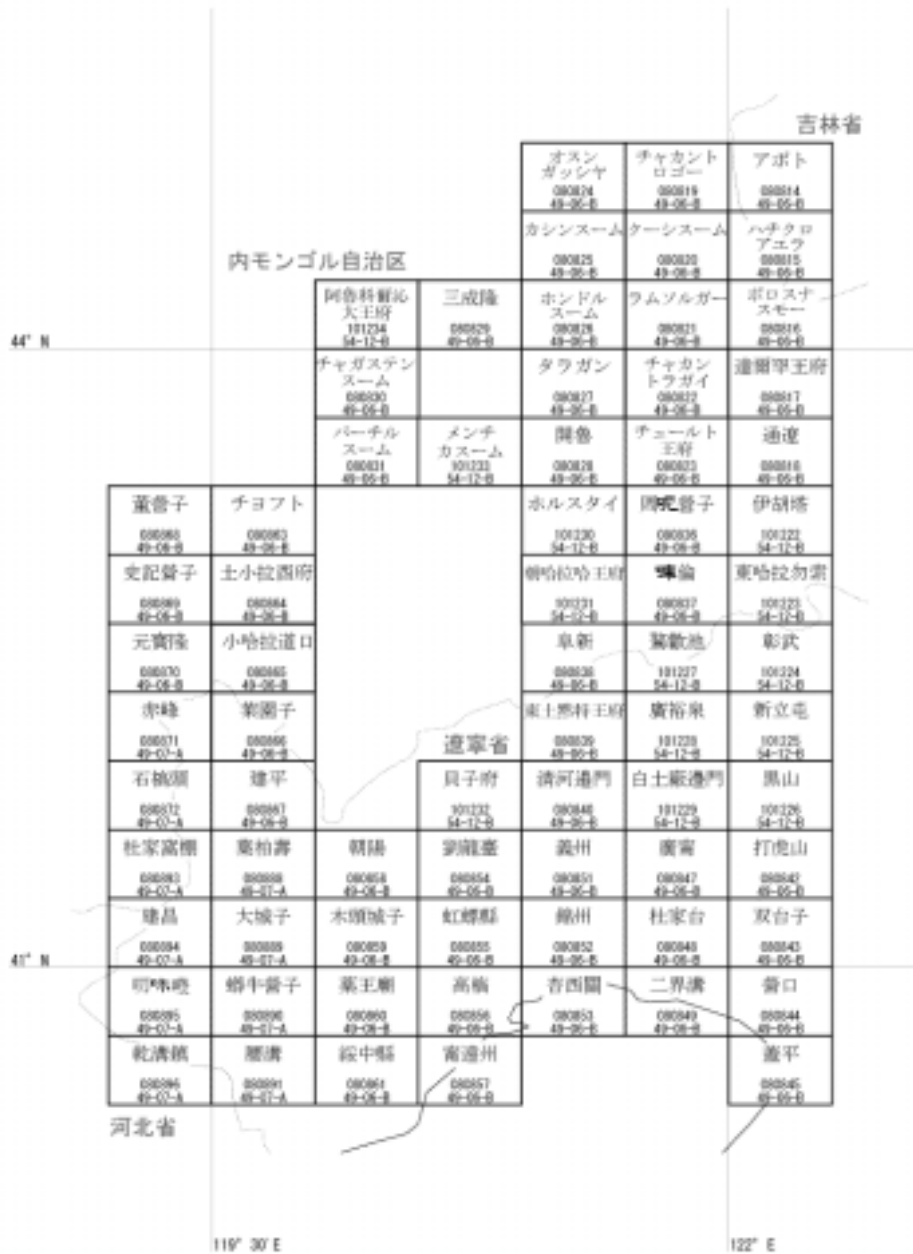


図2 インデックスマップの一例 (満州 - 13 1:100,000)

ネエム営子	間包営子
梧桐好懶	興隆地
了家営子	寶国図
白塔子	
老虎山	

図3 広島大学で補うことができた外邦図の例

また、外邦図を所蔵している機関への情報提供も容易になった。

なお、本年度から当館所蔵資料展示の一環として、外邦図を多くの方に知っていただくために「外報図展」を開始している。来年度以降も国・地域別に開催予定である。

．今後の収集方針

インデクスマップを作成した結果、欠落部分(当センター未所蔵)の図幅が多くあることが判明し、さらにそれらを特定することができるようになった。今後は、この欠落部分を埋める外邦図の所在を調査・収集していく方針である。

その一例として、図2のインデクスマップでは、中央部分が空白(当センター未所蔵)となっているが、2003(平成15)年度に広島大学所蔵外邦図を調査したところ、発行年に数年の違いはあるものの、次の

外邦図を補うことができた(図3)。

また、同じ図幅でも測図・発行年等の違いにより記載内容が異なる場合があるため、図歴の調査も同時に進めていきたい。

．おわりに

本稿は、「第5回外邦図研究会」(平成16年6月20日 於:お茶の水女子大学)での発表資料をもとに、「外邦図研究ニューズレター」原稿として、再校したものである。

東北大学から始まり、京都大学、東京大学、広島大学と調査・収集させていただいたが、各大学では当センターの設立趣旨を御理解いただき多大な御協力を賜ることができた。また、外邦図研究会をとおして多くの先生方から情報を提供していただくことができた。紙面をお借りしてではあるが、関係者各位に厚くお礼申し上げたい。